

夕刊日七十月五

常警每日新聞

定価一圓五錢 一ヶ月五圓 三ヶ月一十三圓 半年一十八圓 一年三十二圓
 電話 五五五 行金五拾錢
 日曜祭日の翌日休刊
 發行所 常警毎日新聞社
 編輯所 常警毎日新聞社
 印刷所 常警毎日新聞社

李官堡の激戦と

大越中佐の戦死に就て (三)

岡本少将閣下御前講演

遺言

一、戦死の報を得たならば決してうろたゆる勿れ、心を落ちけ氣付を鎮め緩るゝ後の計を爲すべし死報に接して、うろたゆる様にては三人の子の養育覺束なきこと覺悟せられよ。

二、兼々衛生に意を用ひ体格を練り居りしも今日の如き場合、陛下に捧ぐる爲めなりき男子の本望、唯人後に立ち恥を子孫に残さざる様覺悟し居りたれば死を聞かば人並に働きたるものと知られよ。

三、十年前金鷲勳章を拜受せし際申聞け候事あり念の爲再び茲に繰り返して言ふ

此勳章は二十七八年戦役の功によりて戴きたるものにあらず後日の戦役に忠勤を援んで賜はりたるものと心得居り之に對しても今日は死する迄御奉公を爲すへき場合なりと覺悟せり。

四、子供の教育には毫も懸念なし、唯予が兼て申聞け置きたる方針にて薰陶

せらるべし……(修學の場所等に付示さる)省略

五、貢、兼二は軍人に適する体格とならば是非軍人として父の遺志を繼ぎ、陛下に御奉公せしむべし併し体格不充なる事あらば何なりとも適當の仕事に向けしめらるべし。

六、父上様には老年の御身の上今日迄重ねゝの御不幸を見られ今又予の死に遇はれれば御落膽のあまり病にても起されはせぬかと案ぜられ候、今更細まゝ述ぶる必要もなければ何卒御心を慰め、予の分迄出来得る限御世話をせられ度呉れ、も頼入申候。

七、御前様にも今日迄予に仕へ子供を養育もられたる事の能く注意の届き至る予の死後は何かに付け心細き事あるならんと思はるれど決して憂き世など悲觀的に考ふる事なく親の世話、子供の教育、是非とも予と御前と二人分働かねばならぬ事と覺悟せらるべし、何卒健全に

父上へ
 御父上様には御老体にも拘はらず愈御壯健奉賀候
 備て是れ迄も今少し、と思ひながら碌々御世話も叶ひ不申多罪の段何卒御許し被下度候、其上今回は御先へ此世を去り候事重々御不幸に接せられる御父上様に對してはお氣の毒の至りながら國家未曾有の快戦に於て戦死候事は軍人の本分として此上なき名譽に有之候間御氣丈夫なる御氣質定

此世に永らえて幸福多からん事を祈り上候。

八、兼て申遺はし置きたる如く予が葬式には僧侶を要せねば讀經もいらぬ、神官もノリトも無用、勿論戒名などもいらぬなり唯々心ある人のみ會葬せらるれば満足なり、必ず磐城地方送葬の弊と論したる主意に違ふ勿れ、又石碑は決して親の石碑より大なるを建る勿れ、無益の費用を節して尙武會へ寄附すへき義務を遂げられたし、是れにて満足

明治三十七年九月二十日 遼陽快戦後同城外 北方岳家堡にて認む 兼吉

宛名 〇〇×〇〇

めし小子戦死と聞かれれば御喜び被下候と存じ候世話せらるべきを却て多くの孫共を御世話せらるゝ事の御骨折なるは恐入候へども是れも小子の片身と思召し又此世の約束事と御諦め益々御壯健にして御永らえ孫の成長を御樂しみ遊さるゝ様、

偏に奉願上候、呉れ、も御老体御自愛專一と奉祈候。先は御暇乞迄如斯に御座候。

明治三十七年九月二十日 遼陽陥落後岳家堡に於て認む 兼吉

御父上様御膝下

外科

専門 X
科線光

上田外科醫院

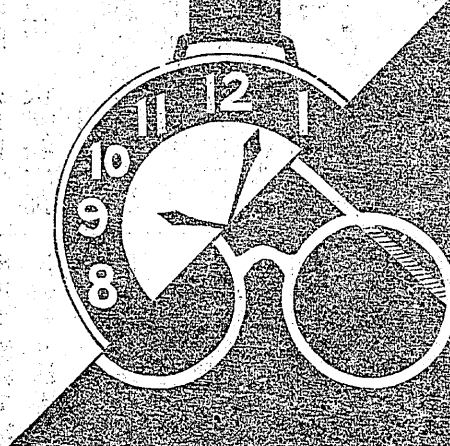
平町南
電話一二九町番

三井

タクタク

電話六八五番

正確な時計



お客様本位の……

好適の眼鏡

平一常盤屋時計店

香りのヨイ

新茶

入荷致しました
 ◎一斤 一、〇〇一、六〇

香味本位の本場銘茶を召上りませ……

御來店の方に二服呈上……

電三九六番

大勝園

夏の通學服

丈夫で輕快な

霜降小倉服
 値段も下記の廉價提供

小学生用……¥0.30
 同[特製]……¥1.00
 中学生用……¥1.75



ふかやの洋服店 平電二〇三

葬具と靈柩自動車御用達

造花

新らしく安い

町川新町平
 屋本橋
 番三六一話電

農村の牛馬使用

一年僅か卅日

有畜農振興の要ありと

郡農會の青山技師語る

石城郡下の農村に於ける牛馬使用状態を郡農會が調査した處に依るとその利用法が

極めて幼稚で使用日

數は一年間を通じ少きは廿日長くても四十日平均三十日位である右に關し青山技師は語る『これでは何故に牛馬を飼育してゐるか

意義が認められないこととなるこのやうな状態では牛馬を有利に使用してゐるとは云へない機械を利用するにしても破損した場合修繕する力なき農家も多

い管であるしかも牛馬を飼育してゐるにしても使用日數は右の如く極めて少い、もつと農村で牛馬を飼ひ有効に使用すべきである支那の南部では子供が水牛を使つて揚水作業を行つてをり伊太利の如きはもつとも

有利に使用してゐる家畜を購入し得ざる農家のためには地主が貸與するが良いたとへば二百圓の役兼仔牛を貸與したとしその生産せる仕牛六ヶ月のものを賣却し半額だけを

地主が、とるといふやうな方法でそれを二百圓の金額に達するまで續け皆済の後は親牛を無料で小作人に與へる方法など小作人は喜び耕地は厩肥で肥え地主

對 小作人の親私にもなる有畜農業を行ふにしても特にこれ等の点を考慮すべきである』

青訓生徒經費五十圓

財政逼迫の折柄

平町悲鳴をあぐ

平町の青年訓練所は逐年入所生が激減し當局が大童の勧誘も効無く現在では該當者三百五十名餘りなるに拘らず僅に

廿餘名に過ぎず全く名目のみの存在となつてゐる、而してこの經費は九百八十九圓で、これを一人頭にすれば一生徒約五十圓を要する譯で中等學校生徒よりも大なる額となるので斯

ては町財政の極度に逼迫してゐる折柄矛盾してゐる使用途であるとなつてゐる、當局では、頗る苦にやんでゐるが現在の訓練所の組織では挽回は到底困難の事と觀られるので明年度あたりからは名實共に形式的なものになるのではなからうかと懸念されるに至つた

養蠶資料調査に

選抜された十氏

既報—政府の産業五ヶ年計畫に依る養蠶業の資料調査に關し縣下二ヶ所の調査中の一ツとして選ばれた石城

郡泉村では養蠶家を選抜中の處、此程左記十名が選任された
吉田友重 永島太郎

吉田祐良 瀧田清吉 古口浦之助 上遠野竹松 鈴木長次郎 三戸良治 佐藤伊之吉 大平松太郎

尋四研究教授

平第一小學校に於ては来る三十日午前十一時尋常科第四學年に對し研究教授を行ふと

平女子青年總會

廿七日世界館にて

平女子青年國春期總會は来る二十七日午後一時より平驛前世界館に於て開催されるが當日は磐城高等女學校長正木貞二郎氏の講演及び餘興として活動寫真ある由

春蠶掃立講習

石城郡植田町農會では附近三ヶ村の村農會と協力し春蠶掃立に關する講習會を十八日午後一時より植田小學校に開催するが講師は久之濱蠶業取締支所長である

蕃殖牝馬

健康診断

既報磐城畜産馬組合の蕃殖牝馬の健康診断は左記日割にて行ふと
(五月十九日)石住村田屋小學校(廿日)貝宿村産馬惣代方、荷路夫村社前廣場(廿一日)田人村産馬惣代方(廿二日)田人村字下黒田糶市場

平町人事

△田町四七 永山敏氏三女
△久保町三七 高橋ミノ(五)

共済委員任命 石城郡永戸箕輪組合村並に上下小川の兩村では此程救護法に依る共済委員を設置する事となり左記諸氏が共済委員として任命された
△鈴木石之助 草野長吉 阿部友睦(永戸箕輪村) △草野定藏 佐藤忠次郎 (上下小川)

△三丁目一 江原一郎氏長 女 英子
△久保町三七 高橋ミノ(五)

大塚の 學生靴!!!

耐久新製品
編上靴 六・〇〇
半靴 五・〇〇
不安心なるキカイ靴より、安心得る弊店の靴を

大塚支店製靴部
電話七七番

ト 鏡
計 眼
ト キ ワ ヤ
平一・電三三九

◎毎度御ひのき様です、今回店内を改築いたしました。例年の通り
初夏のノミモノ 初め
一ブドウ酒 金拾錢 一カルピス 金貳拾錢
一レモン 金拾錢 一ドリコノ 金拾錢
一水豆 金八錢 一アイスクリーム 拾錢
一アツキアイス 金五錢 一チョコレート 金拾錢

◎ドーゾお散歩の
おかへりにお立寄り下さい
改築の食堂がおまちして居ります
御料理仕出し 平二丁目警察署通り
鮮魚 魚清水卸部
折詰御壽司 電話六三三
勿來製氷一手販賣 魚清水卸部 電話四六七

玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番

受賞御挨拶
今回當地主催昭和産業博覽會開館中小生特許第八九九二號手袋機械賞演に際して本縣視察員始め各地市町村勸業課員及産業組合消費組合等の公共團體代表者各位其他一般觀衆の絶大なる賞讃を博し更に審査會に於て名譽大賞牌を賜はりました事は從來皆々様の御同情御後援の賜と深く感謝する次第で御座います。今後は當地は固より本縣延いては日本全土に向つて本機械及製品を普及し當地産業開發の爲め益々奮闘努力する覚悟であります。何卒微力なる吾々に尚一層の御後援賜はらん事を紙上より切に御願する次第で御座います。
平町 坂本メリヤス工場
坂本兼治郎

本年の梨は上出来

収穫六十萬貫豫想

發育盛りの昨今天候に恵る

石城郡に於ける梨果の發育は赤井の奇病も其後大した事なく一般を通じては非常な好成绩を呈して居る殊に發育盛りの昨今の天候が至極順調なるに恵れ各村共に本年は大豊作を豫想されて居る一体梨果は郡下果樹類の最高を占め毎年平均五十萬貫の收穫を見一箱一圓五六十錢の最取引相場を呼んで居るが本年は六十萬貫の收穫確實と郡農會が見込んで居る

豫期以上の健康相談申込みあり現在の二診察室では狹隘を感じ田町々役場通に新設の同相談所の竣工を急いで居るが遅くも来月十五日頃には落成するので早速移轉開業する見込である

磐中連絡道路 磐城 中學校作業科にては本日手工室より寄宿舎内にある木工場に通過する道路三十間をコンクリートにすべく着工した

井上、野崎兩縣議が廿四日渡滿の途に

井上氏は途中一行に別れ 單身上海へ向ふ

死線に

戯る幼兒

石城郡湯本町入山炭礦専用線を石炭を満載せる二百六十二號貨物列車が昨十六日午後三時半頃湯本驛に向つて進行中線路内で遊ぶ幼兒を發見危険信號を發したが心付かぬので急停車を行ひ難を避け五分遅延して湯本驛に到着したが幼兒は同町八仙居住田勝正二次男好政(五)と判明親元に注意して歸宅せしめたと

居候男に

女から歸宅願

平町新川町澤田虎太郎方同居人七生庄七(三)は昭和五年頃双葉郡大堀村杉森渡邊ヤスヨ(三)と内縁關係を

平各校長出張 平町各小學校長は來月八、九の兩日飯坂小學校に於て開かれる縣下小學校長會に十一、十二の兩日福島師範學校講堂に於て開かれる縣下教育會に各々出席すると

不實記載

罰金二十圓

石城郡神谷村大字中神谷字石脇四十三番地佐藤安藏(四)は長男忠と内縁の妻江尻千代子との間に出來た子供を妻シイとの間に出來たかの子の如く装ひ自分等の三女と入籍した爲め公正證書原本不實記載並に行使罪として罰金二十圓日本平區裁判所に於て略式命令を以て處分された

川上君が凱旋

今回の上海事變に際し高田山砲隊に充員召集された平町紺屋町川上龍三郎君は來る廿二日午後三時五十三分平驛着磐城線列車にて凱旋する事になった

水戸專賣局から

男女職工八百名 閑伽井嶽登山に來郡

水戸市の煙草專賣局では男女職工八百名の慰安の爲め來月三日午前六時四十五分水戸發臨時列車にて閑伽井嶽に登山旅行をなすが赤井驛着は午前八時四十五分に即日午後四時五十分赤井

山田均君入營

既報 來る六月一日朝鮮十九師團の各聯隊に入營すべき平町の入營兵のうち歩兵七十六聯隊に入營すべき三丁目山

矢吹先生逝去

平町 鐵冶町矢吹キク子氏は病氣中の處昨日朝遂に逝去した同女史は平第二小學校に永く教鞭を執り現在は平女子青年團賛助員である處から同團は香爐及燭臺を贈つて



明日のラジオ

今夜は北風の晴れたり、曇つたり、明日は北東の風、雨、夕方から雨、氣となる

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
お話「人形芝居」二内
山憲堂
後七、三〇 講演「町人の天下」菅野和太郎
後八、〇〇 祭文とちよんがり 祭文山口一鏡
よんがり志賀清山
後八、三〇 小唄鈴木みよ
後八、五〇 管絃樂 新交響樂團練習所より中継日

明日の部

前九、一〇 料理献立「メキシコサラダ」朝倉長吉
前一〇、三〇 家庭講座
後一〇、〇五 富本一女鳴神
後二、〇〇 富本豊前外
郷軍人青年團が盛大な見送をなすと

磐中對平商の庭球試合選手

庭球試合選手

磐城中學校對平商業學校の庭球試合は來る二十二日午前十時より磐中コートに於て開催されるが兩校のメンバーは左の如くである

- 磐中 平商
- 竹澤 小田
- 川隅 木田
- 小川 齊藤
- 大谷 藤木
- 酒井 齊藤
- 眞木 塚本
- 吉田 安馬
- 村上 鈴木

平職業紹介所報告

- 求人部の
- 農夫兼馬夫 四十五以下 尋卒 月八圓(飯野村某)
- 女中 三十迄 尋卒 給料面談(平町某)
- ボーイ見習 十八迄 尋卒 月五圓(平町某洋食店)
- 回求職の部
- コック 二十六才 尋卒 給料面談(好間村某)
- 看護人 二十八才 尋三

科病柳花科兒小科内

院醫沼藤

町屋紺町平
番七〇五話電

應需院入

- 修 給料面談(平町某)
- 土工夫 三十四才 尋四
- 修 給料面談(山形縣某)
- 新聞配達 十七才 佑賢
- 一修 給料面談(赤井村某)
- 印刷工見習 十八才 佑賢
- 賢卒 給料面談(大浦村某)

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉演
近藤 藤紫 雲畫

第五十二席 眞庭念流達人櫻井五助

殺せし事を主殿が

村上主殿の若黨七郎次は
櫻井五助に對ひ

七『まづお聞き下さいまし
主人は自分の手で遠藤様を
殺して置きながら、それを
森川基平様が爲た事だと申
して居ります、此秘密を知
つて居るは私ばかり然し主
人の悪事を御目附に訴へて
出るは道に外れた事と熟と
堪いてゐましたがお氣の毒
なのは遠藤様の御新造、一
時お祿は上に取上げられ當
座の御入用として百兩お下
げになつたとの事、それに
遠藤様の死にましたは森川
基平様の爲た事とのみ御新
造を始め御家中の者も思つ
てお在になります、然し遠
藤様を殺したは只今も申上
げました通り私の主人、主
殿でございます』



それは甚だ宜しくない事と
私の主人に意見をしたこと
があるさうです。是等に依
つて遠藤様を殺したもので
ございませう、あの方を生
かして置いては不當の利を
貪り居る事が何時か殿様の

るものだ、それが主人の悪
事を俺に知らせるとは合点
の行かぬ事だナ
七『それにはお話し申す事
がございます、この七月の中
旬主人が城下の商人に貸付
けました金子を私が取りに
参りまして五十兩受取り戻
らうといたした時、其家の
主人に引留められてお酒を
御馳走になり大層酔酩して
戻つて参るその途中財布に
入れた儘其金を取落しまし
てございませう、さア主人は
これを聞いて怒りまして、
取落したとは嘘であらう、
何處へか金を隠し置いたに

たしました事と存じます。
ところが女中のおかめと申
す者が主人の部屋より土藏
の鍵を持出して私を助け出
し自分の親元に少しも早く
逃げると申しますから、お
かめの實家直江津の又兵衛
と申す漁師の許へ一時身を
隠しましたが其後おかめは
どうしたかと今宵忍んで高
田へ参り主人の邸の様子を
窺ふと僕の六藏に出會ひ、
それから段々承はりました
には、私を逃がしたはおか
めの所爲といふ事を主人は
知つて打叩き果は是亦土藏
に閉ち籠め置きましたとの
事』

ておくれ、死んでしまつて
は可哀想だ』
五『ウン助けて遣はず、時
に七郎次是より村上の許に
参つて確と談判いたし遠藤
仁右衛門を殺せし事を主殿
が自白いたさば伯父の怨み
を晴らす、就ては斯様いた
しくれ』
と聲をひそめて囁いた
七『畏まりました』
五『コレコレ六藏、貴様は
先に戻れ、七郎次と共に當
家に参つた事は主殿に申す
ナ、此事を云ふと其方の首
は無いぞ、此刀が自然と鞘
を脱して貴様の居る處へ飛
び行き首を斬り落すぞ』
と威されて六藏はガタガ
タと慄へました。

五『どういふ宿意あつて村
上は拙者の伯父を殺したか
謂れなくして人の生命を絶
つ者はあるまい』
七『其事に就て私もいろい
ろ考へましたが、これは遠
藤様が殿様の御寵愛深きを
妬み、二ツには殿様の御手
元金と名を付けて城下の町
人又は在方の百姓共に貸付
ける事を遠藤様が知つて、

お耳に入るであらう、然う
なれば一大事と、これによ
つてあのやうな非道なこと
をいたした事とも存じま
す』
五『左様か、イヤ貴様の話
で伯父が横死いたした事、
仔細に判つた、然し七郎次
貴様は主殿に奉公いたし居

相違ない。さア申立てると
私を打据えた上に土藏に締
込みました、之は五十兩落
したを憎んで土藏へ押籠め
た譯ではありますまい、主
人が遠藤様を殺しました事
を私が知つてゐるを薄々感
づき、金を落しを幸ひに
究命を申付け乾殺さうとい

と云はれて大きな欠伸を
した六藏
六『お早う』
七『何を云ふんだ、おかめ
が旦那に縛られて土藏へ閉
ぢ籠められたその理由を櫻
井様にお話し申せ』
六『それはなんだナ、先刻
溜屋で話したよ』
七『俺は聞いたが、櫻井様
は未だお聞きにならぬ』
六『それはなんだ、糸と針
が落ちてゐた處からおかめ
さんが七郎次さんを逃した
事が判つて針ほどの事が棒
ほどの騒ぎになつた、若し
櫻井様、おかめさんを助け

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める
川崎巡 回文庫
電六三〇番
(申込次第規則書進)

貴金屬 高橋時計店
時計及眼鏡類
懷中電燈
キミガヨ電気
ランブ特約店
路小槌搔町平

度量衡、計量器、吸入
用酸素、酸素吸入器
關内藥局
電話四〇番
磐城セメント會社特約店

久松屋商店
磐城平町五丁目 電話九番九九番
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は久松の生命なり

耳鼻咽喉科専門
氣管食道科
平南町(電話一七〇番)
大和田醫院

堂々
斯界の群を抜く
最高級車プロモス號
今般増車致しました
何卒御用命は
電話三九五番へ
セリザワタクシ

赤い目
かゆ目
一滴できく
家傳 神教水 (新容器入)
平町二丁目(電話三六)
堀藥局